

整理番号 2017P-228  
補助事業名 平成29年度 被災地域および被災者受入地域における児童、高齢者、障害者等を対象とした生活支援活動 補助事業  
補助事業者名 一般社団法人 日本自閉症協会

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

熊本地震で被災したASDのある人とその家族を対象に、音楽祭とバスハイクを開催する。このイベントを通して、ASDのある人とその家族が日々感じているストレスを解消し、同じ状況下にある他のASDのある人やその家族と日常生活における困難さや辛さを共感する。また、周囲から孤立しないように同じような境遇の人とのつながりを育む場を提供し、ASDのある人とその家族が、日々の生活を前向きに過ごせるように支援することを目的とする。

### (2) 実施内容

<http://www.autism.or.jp/report05/keirin/> (URL)

音楽祭とバスハイクを実施した。音楽祭は自閉症に理解のある京都の「アンサンブル・ハーティブリッジ」によって、クラシックから人気テレビのテーマソングまで、幅広い曲を演奏いただいた。中にはクラリネットを演奏しながら分解してだんだん小さくしたり、猫の鳴き声が掛け合いの歌にしたり等、自閉症の子どもが興味関心をもって参加できるような工夫を行った。日常生活において、親は自閉症の子どもにつきっきりになってしまい、音楽に触れ合う機会は少ないので、生の音を聴いて楽器や歌の迫力と優しさを間近に体験することは貴重な体験となった。

バスハイクでは、参加者親子は熊本城の城彩苑に集合した後、親と子どもで別れての行動となり、親はバスに乗って一足先にホテルへと向かい、エステや茶話会を行い、リラックスするとともに、他の親たちとの交流を深めた。一方子どもは、九州ルーテル学院大学の学生と一緒に、和菓子作り、昼食、クルージング、音楽療法、工作を行い、親以外の人と触れ合う訓練と集団でスケジュールどおりに行動する訓練を行った。



## 2 予想される事業実施効果

日頃自閉症の子どもにつきっきりの親は、子どもと別行動をとり、他の親御さんと交流を深めたことで、リラックスすることができた。今尚震災前の生活とは異なる環境で生活されている方が、前向きに生活を営むための活力を蓄えることができた。一方自閉症の子どもにとっても、親以外の人たちと共に行動することで、人と接する楽しさや、新しい世界に飛び込んでいく力を養うことができた。震災のときに必要となる、助け合うための関係性を築くことができたことも大きく、実際に顔を見合わせて話をして、相互に理解をしていくということが、震災などの有事の際には必要不可欠である。また、自閉症という障害への理解はまだまだ一般の方には広がっていないため、有事の際に備え、当事者家族と同じ立場の親や理解してくれる支援者等が手をとっていけるような取り組みを常日頃から行っていくことが必要であり、その方法と根拠の一つとして拡がっていくことが効果として予想される。

## 3 補助事業に係わる成果物

該当なし

## 4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般社団法人 日本自閉症協会

(イッパンシャダンホウジン ニホンジヘイショウキョウカイ)

住 所： 〒104-0044

東京都中央区明石町6-22 築地ニッコンビル6F

代 表 者： 会長 市川 宏伸 (イチカワ ヒロノブ)

担 当 部 署： 日本自閉症協会事務局 (ニホンジヘイショウキョウカイジムキョク)

担 当 者 名： 事務局職員 陳野 功 (ジンノ コウ)

電 話 番 号： 03-3545-3380

F A X： 03-3545-3381

E - m a i l： asj@autism.or.jp

U R L： <http://www.autism.or.jp/>